

# 令和元年度 鳥取県中部沿岸土砂管理連絡調整会議 次第

日 時 令和元年11月26日（火）午前10時00分～11時30分

場 所 中部総合事務所 1号館B棟3階 301会議室

## 次 第

### 1 あいさつ

### 2 議 事

(1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

(2) 各管理者の土砂管理への取組

- ・長寿命化計画策定に向けた検討
- ・北条川放水路河口閉塞対策の検討

(中部総合事務所県土整備局計画調査課)

・北条川放水路河口閉塞対策に向けた『特殊エジェクター工法を用いた試験施工（第2回）』の実施

(中部総合事務所県土整備局河川砂防課)

### 3 その他

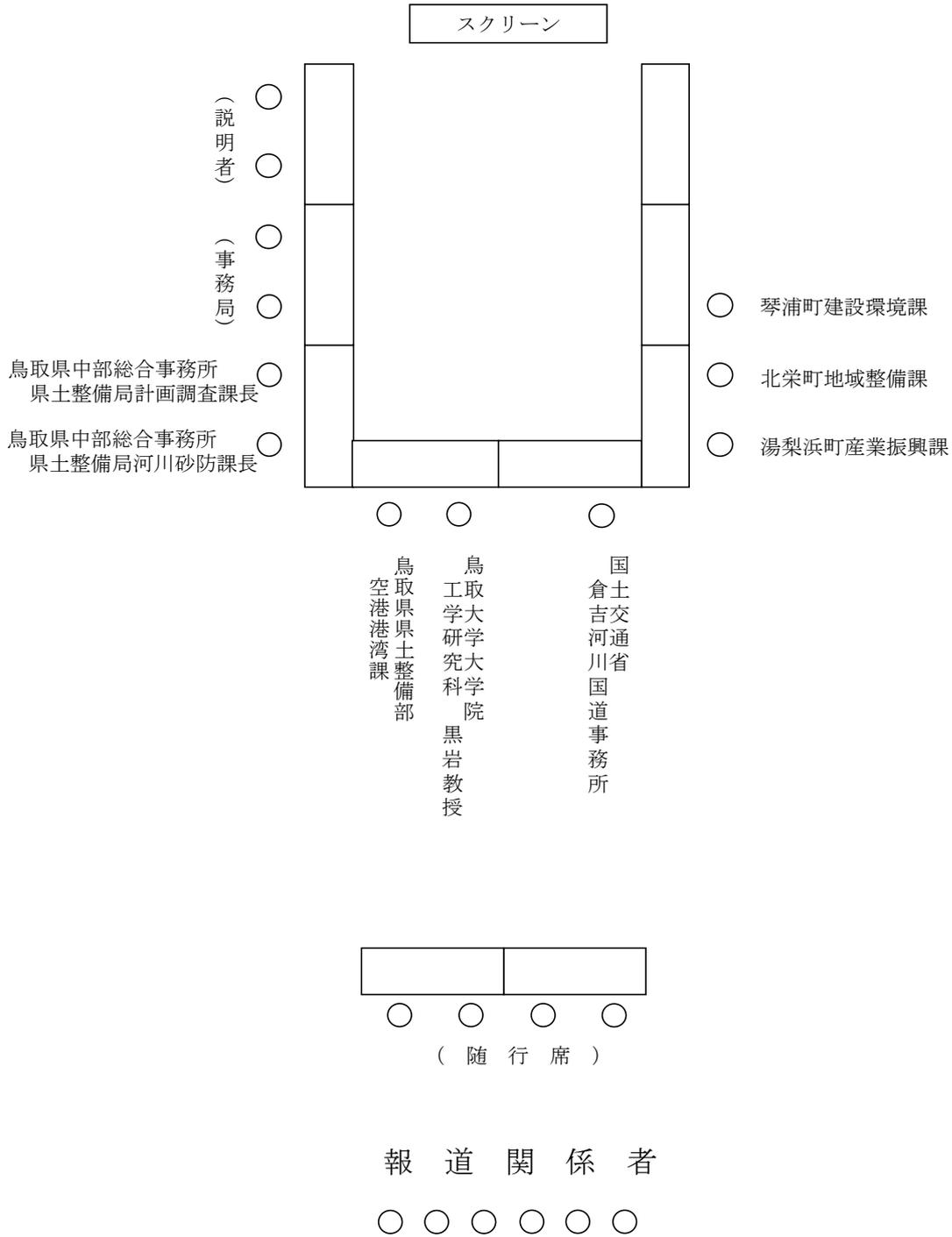
令和元年度 鳥取県中部沿岸土砂管理連絡調整会議 出席者名簿

R1年度		役 職	氏 名	随 行 者
構 成 員	鳥取大学大学院工学研究科	教 授	黒岩 正光	
	国土交通省倉吉河川国道事務所	調査設計第一課長	小島 亨	係長 南 相政
	境海上保安部警備救難課		欠席	
	湯梨浜町産業振興課	課長補佐	岸田 哲夫	
	北栄町地域整備課	地域整備室長	有福 亮	
	琴浦町建設環境課	課長補佐	黒田 武	
	鳥取県農林水産部水産振興局水産課		欠席	
	鳥取県県土整備部空港港湾課	課長補佐	瀬村 正樹	
	鳥取県中部総合事務所農林局林業振興課		欠席	
	鳥取県中部総合事務所県土整備局	計画調査課長	石賀 祐二	課長補佐 安本 善征 係長 松井 俊樹
河川砂防課長		山本 博己	課長補佐 岩竹 秀喜	

事務局

鳥取県県土整備部河川課

# 令和元年度 鳥取県中部沿岸土砂管理連絡調整会議 配席図



## 平成30年度 鳥取県中部沿岸土砂管理連絡調整会議 議事概要

日 時：平成30年11月22日（木）午前10時から11時30分

場 所：中部総合事務所1号館A棟2階 講堂

### 1 議事

#### (1) サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

サンドリサイクル実施状況、評価分析、今後の方針を海岸毎に説明。

[検討対象海岸：天神川右岸地区、天神川左岸地区、由良川左岸地区]

<会議での主な意見>

意見) 北条川放水路における河口の閉塞について状況はどうか。

回答) 高波浪ですぐに河口閉塞してしまっており、頻繁に開削工事を行っている。

意見) 波高だけではなく、波浪の特性についてももう少し留意しておくべき。台風の通過後なのか、冬季風浪なのかで波向や周期について違いがある。

現対応状況	： 今回の説明資料については、昨年度に発生した代表的な高波浪について、発生要因と波高、周期の関係性についても表記することとした。
-------	--

#### (2) 各管理者の土砂管理への取組

##### ■由良川河口閉塞対策の検討状況（中部総合事務所県土整備局河川砂防課）

- ・大栄マリナーでは過去に転覆事故も発生しており、利用者からの静穏度の確保に向けた要望は強い。そこで、導流堤の延伸（25m、50m、75m）について検討を行った。
- ・導流堤を延伸した場合、どの案でも静穏度は向上するが、導流堤を延伸した分だけ堆積傾向となり維持管理費が増額となる。
- ・検討結果を受け、費用対効果の面から導流堤の延伸は実施しない方向だが、静穏度の確保に向けて消波ブロック等の設置やサンドポンプ等の導入を検討していく。

<会議での主な意見>

意見) (羽合漁港での同様な事例での質問を受けて) 一般的には、静穏度を確保しようとする、どうしても土砂の堆積が発生し、浚渫で対応せざるを得ない。ハード整備と維持管理費のバランスを見ながら実施していくのがよいと思われる。

##### ■北条川放水路河口砂州対策～特殊エジェクター工法～を用いた試験施工の実施状況（中部総合事務所県土整備局河川砂防課）

- ・河口閉塞への対応について、今までは人力等により対応してきたが、近年の度重なるゲリラ豪雨等の異常気象により対応が難しくなっている。
- ・そのため、ダム、堰等の堆積対策として利用されている「特殊エジェクター工法」を利用し、河口の閉塞対策を実施。原理としては、高圧のジェット水を利用して負圧させ、土砂を吸引、輸送し外部へ放出するもの。

##### ■北条川放水路河口部治水対策(河口砂州対策)の検討状況（中部総合事務所県土整備局計画調査課）

- ・河口閉塞の解消に向け、河口砂州の形成特性を把握するとともに、数値解析モデルを構築し、北条川全体での河口閉塞対策を検討していく。
- ・次年度は構築した数値解析モデルを用いて、具体的な河口閉塞対策及び河口部治水対策の実施手順の作成及び予備的な設計等を行う予定。